



Title	文章における位置・出現回数と名詞表現との関わり : 新聞記事における〈「事件」をめぐる表現〉の現れ方を通して
Author(s)	雨宮, 雄一
Citation	現代日本語研究. 2019, 11, p. 21-39
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/73338
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

文章における位置・出現回数と名詞表現との関わり

—新聞記事における〈「事件」をめぐる表現〉の現れ方を通して—

On Relation between Appearance Position / Frequency and Noun Phrase on
Text: Through a Case of How to Appear the Expressions Including *Jiken* in
Newspaper Articles

雨宮 雄一
AMEMIYA Yuichi

キーワード：文章，新聞記事，連体修飾，複合語，命名

要 旨

本稿は、〈文章における名詞表現の同一指示〉という観点から、新聞記事における〈「事件」をめぐる表現〉の現れ方を調査したものである。主な結論は以下の通り。(1)初出位置は、記事文章の冒頭文が多い。(2)冒頭文に現れるものは、「主題事件」が圧倒的に多く、「関連事件」も時々現れるが、「参考事件」は現れない。表現形式は、〈節〉型が見られることに特徴がある。(3)非冒頭文に現れるものは、初出の場合、「関連事件」が多く、「参考事件」も見られるようになる。表現形式は、〈φ〉型が多く見られるようになり、〈節〉型が少なくなる。既出の場合、先行する「事件」の表現を指示する表現として、単独の「事件」で受ける場合が多い。特に、〈節〉型は、ほぼ単独の「事件」で受けており、〈句〉型以降は、より単純な形式で受ける。

1. はじめに

本稿は、雨宮(2003)(以下「前稿」)に続くものであり、〈文章における名詞表現の同一指示〉¹⁾という観点から、新聞記事における〈「事件」をめぐる表現〉²⁾の現れ方について、具体的には、「事件」をめぐる表現形式と記事文章内における出現回数・出現位置との関係を調査したものである。なお、本稿では、

連体修飾成分（節・句・語）と被修飾名詞から構成される構造から、複合名詞も含めた修飾成分を受けない名詞までを総称して、「名詞表現」と呼ぶこととする。

まず、前稿の内容について述べておきたい。前稿では、〈「事件」をめぐる表現〉の形式的な多様性について、新聞社会面記事を調査し、〈「事件」をめぐる表現〉の基本類型と、その特徴を記述した。なお、それぞれまとめて、〈節〉型、〈句〉型、〈語〉型、〈φ〉型と呼ぶこともある。表 1 は、それぞれのタイプの代表例を付した全体像の見取図である（雨宮 2003）³⁾。

これら〈「事件」をめぐる表現〉は、同じ事件でも、条件次第で、様々な表現形式によって表現される。すると、ある 1 つの事件の表現が、記事文章内における位置によってどのように異なってくるか、また、その事件が報道される回数等によって、どのように変化していくかを縦断的に記述することが必要となる。

そこで、本稿では、新聞記事における〈「事件」をめぐる表現〉の現れ方、具体的には、「事件」をめぐる表現形式と記事文章内における出現回数・出現位置との関係を調査する。

2. 調査方法

2. 1. 資料

資料は、CD-ROM『CD-毎日新聞データ集 2002 年版』（日外アソシエーツ。毎日新聞社の使用許諾済。）の第 1 面記事本文に該当する箇所、リード部分は含めているが、見出し部分は除外してある。本稿で用いた資料において、〈「事件」をめぐる表現〉の記事本文中に含む記事は、全 464 記事あり、〈「事件」をめぐる表現〉の延べ数は 817 例あった。

2. 2. 分析の観点

本稿では、分析にあたり、以下の観点を導入したい。

- ┌ ・〈「事件」をめぐる表現〉が記事文章中に現れる回数
- ├ ・〈「事件」をめぐる表現〉の現れる記事文章中の位置
- └ ・〈「事件」をめぐる表現〉と記事文章の内容との関係

表 1 : 〈「事件」をめぐる表現〉の見取図（雨宮 2003）

〈節＋単〉型	中心的なことがら	・ 昨年 9 月、オーストラリア北東部の観光地ケアンズで、横浜市出身の奥山美智子さんが殺害された事件
	周辺的なことがら	・ 福島県郡山市で今年 2 月、銃撃されて重傷を負った私立帝京安積高校教諭、菊田孝之さんらに脅迫状を送り付けていたとして、同校労務担当幹部、宮内辰栄容疑者ら 4 容疑者が脅迫の疑いで逮捕された事件
〈節＋複〉型	中心的なことがら	・ 今年 2 月、菊田さんがけん銃で撃たれ重傷を負った殺人未遂事件
	周辺的なことがら	・ パリ在住の建築家、尾島彰さんがパリ郊外ナンテルの民家で遺体で発見された殺人事件
〈句＋単〉型	事件を特定できない	（・ 教団の管理、監督の遅れから発生した事件）
〈句＋複〉型	中心的なことがら	・ 米国大使館を狙った連続爆破テロ事件 ・ 昨年神戸市で起きた小学生連続殺傷事件
〈語＋単〉型	事件を特定できない	（・ 浦和市の事件）
〈語＋複〉型	中心的なことがら	・ 救難飛行艇開発をめぐる汚職事件 ・ オレンジ共済組合の詐欺事件
〈φ＋複（複次結合）〉型	中心的なことがら	・ 大韓航空機爆破事件（〈語〉型に近い） ・ 地下鉄サリン事件（「一次結合型」に近い）
〈φ＋複（一次結合）〉型	中心的なことがら	・ ロス事件

2. 2. 1. 〈「事件」をめぐる表現〉が記事文章中に現れる回数

本稿で対象とする〈「事件」をめぐる表現〉は、ある特定の事件を指しているが、いわゆる「第 1 報」ではなく、「続報記事」で用いられている。

例えば、2002 年 5 月 8 日に、中華人民共和国遼寧省瀋陽市の在瀋陽日本国総領事館において、朝鮮民主主義人民共和国を脱出した住民が亡命を求め敷地内に駆け込もうとした、いわゆる「瀋陽事件」が発生した。そして、その第 1 報

は翌 5 月 9 日の朝刊に掲載されている。この時点では、〈「事件」をめぐる表現〉は用いられていない。

- (1) 中国遼寧省瀋陽市の日本総領事館で 8 日午後 2 時ごろ、朝鮮民主主義人民共和国を脱出した住民 5 人が亡命を求め敷地内に駆け込もうとした。
うち 2 人は、[以降略]

同日の夕刊に続報記事があるが、ここでは〈「事件」をめぐる表現〉が用いられている。

- (2) 中国・瀋陽の日本総領事館で中国の武装警察官が亡命希望の朝鮮民主主義人民共和国住民を連行した事件で、竹内行夫外務事務次官は 9 日午前、中国の武大偉・駐日大使を外務省に呼び、総領事館敷地内の無断立ち入りに抗議するとともに、亡命希望の 5 人の早期の身柄返還を求めた。
[以降略]

こういった、事件の続報記事で現れる〈「事件」をめぐる表現〉は、新聞の読者がどの事件を指しているのかわからなくてはいけないので、〈定名詞句〉であると言える。

ここで、〈定名詞句〉とは「聞き手が知っている（と話し手が認める）名詞句（庵 1994）」であるが、庵(1994)では〈定〉を〈定情報〉と〈論理的 - デフォルト的定 (logical-defaultive definite. 以下 LDD)〉に二分している。

〈定情報〉とは「名詞句 NP1 (先行詞) に二度目以降に言及する際の NP2 (照応名詞句) のこと」であり、〈LDD〉とは〈定〉から〈定情報〉を除いた部分である (庵 1994)。(3)の第 2 文の「この/その/φ ぜんざい」が〈定情報〉、(4)の「あの試合」が〈LDD〉の例である。

- (3) 昨日ぜんざいを食べた。この/その/φ ぜんざいはうまかった。(庵 1994)

- (4) あの試合は惜しかったね。(庵 1994)

さて、記事文章中において〈「事件」をめぐる表現〉がどのように現れるのかを分析するにあたり、当該の記事文章において〈初めて出てきた〉のか、それとも、〈それより以前に出てきている〉のかを区別する必要がある。なぜなら、その表現が〈初出〉である場合、定性は〈LDD〉でなくてはならないが、〈2 度目以降〉である場合、庵(1995)の言う〈テキスト的意味〉⁴⁾が付与され、定性は庵(1994)の〈定情報〉となるため、〈LDD〉である必要はないからである。その

ため、〈初出〉の場合と〈2度目以降〉の場合では表現が異なってくる可能性がある。

そこで、本稿では、まず、〈〈「事件」をめぐる表現〉が1度だけ出現している場合〉と〈〈「事件」をめぐる表現〉が2度出現している場合〉と〈〈「事件」をめぐる表現〉が3度以上出現している場合〉に分け、そのうち、〈1度だけ出現している場合〉と〈2度出現している場合〉を中心に、調査・考察を進める。⁵⁾

〈1度だけ出現している場合〉の〈「事件」をめぐる表現〉は、当然〈初出〉である。そして、〈2度出現している場合〉は、さらに、〈それぞれが指している事件が同じか否か〉で分けて考える。〈それぞれが指す事件が異なる場合〉は、それぞれが〈初出〉であると考えることができる。一方、〈それぞれが指す事件が同じである場合〉、〈初出〉と〈2度目〉との関係が問題となる。

2. 2. 2. 〈「事件」をめぐる表現〉の現れる記事文章中の位置

また、〈初回〉か〈2度目以降〉かという観点の他に、〈記事文章中のどこに現れるか〉という観点も重要である。

特に、〈冒頭文〉については、永野(1965)に「文章(文の連鎖)において、冒頭文は、第二番目以下の文とはちがった特別の任務をもつ」とあるように、〈冒頭文〉は文章においては特別の位置付けを与えられる。その他、時枝(1954, 1960)、林(1973)、市川(1978)、井上編(1979)、井上(1983, 2009)、永野(1983)、野田(1984, 1996)等にも、〈冒頭文〉に着目した研究がみられる。

このように、〈冒頭文〉か〈非冒頭文〉かによっても、現れ方が異なる可能性がある。

2. 2. 3. 〈「事件」をめぐる表現〉と記事文章の内容との関係からみた事件の分類

さて、前稿においては、〈「事件」をめぐる表現〉形式の基本類型を整理したが、これだけでは文章との関わりをとらえにくい。そこで、本稿では、〈「事件」をめぐる表現〉が指す事件と記事文章の内容との関係という観点も導入する。

まず、ある特定の事件についての記事文章では、当然、その事件を指す〈「事件」をめぐる表現〉が現れる。この場合の事件を「主題事件」と呼ぶこととす

る。つまり、「主題事件」とは、「記事の話題として扱われている事件」のことで、次の例では、「鹿児島県・奄美大島沖の東シナ海で昨年暮れに起きた不審船事件」が、記事の話題となっている。

- (5) \見出し\東シナ海・不審船射撃沈没 水中調査始まるー海上保安庁
鹿児島県・奄美大島沖の東シナ海で昨年暮れに起きた不審船事件で、
第 10 管区海上保安本部の捜査本部は 25 日午前 8 時から、不審船の沈没
現場で、引き揚げの可能性を探る水中調査を始めた。[以降略]

ところが、「主題事件」についての記事文章内でも、他の事件について言及することがある。この中で、「主題事件」の当事者が関わった等、記事の中心的な話題と内的な関連をもつ事件を「関連事件」と呼び、「主題事件」と直接関連するものではないが、過去の判例や類似した事件として記者が言及した事件を「参考事件」と呼ぶこととする。

まず、「関連事件」の例を挙げる。次の例では、「大阪教育大付属池田小の乱入殺傷事件」は、この記事の中心的な話題である「文部科学省が設置した「学校施設の安全管理に関する調査研究協力者会議」の最終報告書案が 30 日まとまった」ということと内的な関連をもっている。

- (6) \見出し\池田小の事件受け、最終報告案まとまる 学校安全管理「校内の死角をゼロに」

大阪教育大付属池田小の乱入殺傷事件を受けて、文部科学省が設置した「学校施設の安全管理に関する調査研究協力者会議」の最終報告書案が 30 日まとまった。[中略] 池田小事件の遺族から今年 7 月に聞き取った意見を基に、低学年の教室は職員室近くに置き、学校敷地の境界から離させるなど具体例を盛り込んだ。[以降略]

次に、「参考事件」の例を挙げる。次の例で、「日本ハムの食肉偽装事件」は、記事の話題とは直接関連しないが、「企業不祥事」として、記事の書き手が関連付けて扱っている。

- (7) \見出し\東電・原発トラブル隠し 社長と会長、相談役就任で調整
東京電力は 12 日、原発トラブル隠しで引責辞任する経営陣 5 人のうち、平岩外四相談役、那須翔相談役が社業から退き、南直哉社長と荒木浩会長が後任の相談役に、榎本聡明副社長は顧問にそれぞれ就任するこ

とで、最終調整に入った。[中略]

企業不祥事では、日本ハムの食肉偽装事件で、会長が引責辞任後に名誉会長に就任する人事が批判を浴び、撤回された。東電でも最終決定は、南，荒木両氏に任せることにしており、[以降略]

以上のように、記事内容との関わりから、〈「事件」をめぐる表現〉によって表される事件を3つに分け、分析を行う。

以降、まず、〈「事件」をめぐる表現〉がどこに現れるのか、初出位置を調べる。そして、その現れる位置により、冒頭文、非冒頭文、それぞれに現れる〈「事件」をめぐる表現〉の特徴を記述する。

3. 〈「事件」をめぐる表現〉の初出位置

まず、初出の〈「事件」をめぐる表現〉が、冒頭文と非冒頭文のどちらに現れるのか調べた結果、冒頭文に〈「事件」をめぐる表現〉がある記事は、全464記事中303記事（全記事中65%）見られた。

(8) 雪印食品関西ミートセンターが輸入牛肉を国産牛と偽装して業界団体に買い取らせていた事件で、兵庫県警は25日、詐欺容疑などで来週にも同社本社などへの家宅捜索に踏み切る方針を固めた。グループ企業の北陸雪印ハムの関与が判明するなど、組織的な偽装工作の疑いが強まり、[以降略]

また、〈「事件」をめぐる表現〉が1度しか現れない記事は、278記事あったが、そのうち、冒頭文に〈「事件」をめぐる表現〉が現れる記事は172記事(62%)、第2文以降に〈「事件」をめぐる表現〉が現れる記事は105記事(38%)であった。このように、〈「事件」をめぐる表現〉は記事の冒頭文に現れる場合が多い。

以下、冒頭文、非冒頭文、それぞれに現れる〈「事件」をめぐる表現〉の特徴について考察する。

4. 冒頭文に現れる〈「事件」をめぐる表現〉の特徴

4. 1. 記事内容との関連

さて、冒頭文に現れた〈「事件」をめぐる表現〉(303例)であるが、以下に示すように、「主題事件」が圧倒的に多い。時々「関連事件」が現れるが、「参考

事件」は現れなかった。

{	・ 主題事件	……	271 例 (89%)
	・ 関連事件	……	32 例 (11%)
	・ 参考事件	……	0 例 (0%)

4. 2. 冒頭文はどの表現形式が多いか

次に、表現形式の面から冒頭文の特徴を調べる。表 2 に示すとおり、〈語＋複〉型が最も多く、〈節＋単〉型（中心）、〈句＋複〉型、〈 ϕ ＋複（複次結合）〉型が続く。また、これだけを見ていると、あまり目立たないが、非冒頭文の場合と比べると〈節〉型が見られるのも冒頭文の特徴であると言える。

表 2：冒頭文に現れる表現形式

〈節＋複〉型（中心）	8 (3%)	主題 8
〈節＋複〉型（周辺）	4 (1%)	主題 4
〈節＋単〉型（中心）	41 (14%)	主題 41
〈節＋単〉型（周辺）	3 (1%)	主題 3
〈句＋複〉型	25 (8%)	主題 22/関連 3
〈句＋単〉型	1 (0%)	主題 1
〈語＋複〉型	179 (59%)	主題 161/関連 18
〈語＋単〉型	3 (1%)	主題 2/関連 1
〈 ϕ ＋複（複次結合）〉型	27 (9%)	主題 22/関連 5
〈 ϕ ＋複（一次結合）〉型	12 (4%)	主題 7/関連 5

- (9) 協和香料化学茨城工場が無認可添加物を含む香料を出荷していた食品衛生法違反事件で、茨城県警と警視庁の合同捜査本部は 15 日、[以降略]（〈節＋複〉型（中心））
- (10) 井上裕前参院議長の政策秘書だった半田好雄容疑者ら 6 人が逮捕された競売入札妨害事件に絡み、千葉県鎌ケ谷市の皆川圭一郎市長が工事予定価格を漏らした見返りに業者側から現金 1000 万円を受け取った疑

いが 17 日、強まった。[以降略] (〈節＋複〉型 (周辺))

- (11) 東京都江東区有明 3 の新交通ゆりかもめ線国際展示場正門駅構内で 24 日未明、消火用ホースの格納箱が爆発した事件で、警視庁捜査 1 課と深川署は 26 日夜、[以降略] (〈節＋単〉型 (中心))
- (12) 加藤紘一自民党元幹事長の事務所代表、佐藤三郎氏が公共工事の口利き料に山形県内の複数の建設会社から 2 億円の提供を受けたとして、東京国税局から所得税法違反容疑で強制調査を受けた事件で、佐藤代表側に現在も 5 億円以上の所得申告のない資金がプールされていることが 13 日、明らかになった。[以降略] (〈節＋単〉型 (周辺))
- (13) \見出し\「アルカイダと確信」バリ爆発で米大統領
ブッシュ米大統領は 14 日、インドネシアのバリ島で起きた爆弾テロ事件について、ウサマ・ビンラディン氏の組織「アルカイダ」による犯行との見方を示した。[以降略] (〈句＋複〉型)
- (14) 芸能プロダクション「フリーゲートプロモーション」の巨額脱税事件に絡み東京国税局は 10 日、同社から金を受け取っていたとされる自民党衆院議員、加藤紘一氏の前秘書の事務所などを所得税法違反容疑で強制調査し、家宅搜索した。[以降略] (〈語＋複〉型)
- (15) 日本ハムは 20 日、臨時取締役会を開き、牛肉偽装・隠ぺい事件に関する社内調査結果をまとめ、社内処分を決める。[以降略] (〈φ＋複 (複次結合)〉型)

また、「主題事件」「関連事件」との関わりについては、〈節〉型は「主題事件」の中にのみ現れ (56 例)、「関連事件」には現れないこともつけ加えておく。

5. 非冒頭文に現れる〈「事件」をめぐる表現〉の特徴

続いて、〈「事件」をめぐる表現〉が、非冒頭文に現れた場合であるが、これについては、その記事において、〈初出〉か〈既出〉かで分けて考える。

5. 1. 初出の場合

まず、初出の場合を調べてみた。今回対象となるのは、初めて出てきた〈「事件」をめぐる表現〉が非冒頭文で現れる場合で、全 464 記事中 161 記事あった。

5. 1. 1. 記事内容との関連

初出の〈「事件」をめぐる表現〉が非冒頭文で現れた場合、記事内容との関連からの分類は、以下のように、関連事件が多い。冒頭文の場合と比べ、主題事件の割合が大幅に低くなり、参考事件が現れるようになることも特徴的である。

┌	・ 主題事件	……	38 (24%)
	・ 関連事件	……	90 (56%)
	・ 参考事件	……	33 (20%)

5. 1. 2. 表現形式

現れる表現形式は、表 3 の通りである。このように、非冒頭文においても〈語＋複〉型が多く見られる。したがって、〈語＋複〉型はかなり安定した形式と考えることができる。また、〈 ϕ 〉型も比較的良く見られるようになる。それに対して、〈節〉型は比較的少なくなる。

表 3：非冒頭文かつ初出の場合の表現形式

〈節＋複〉型（中心）	1 (1%)	参考 1
〈節＋複〉型（周辺）	2 (1%)	関連 2
〈節＋単〉型（中心）	5 (3%)	主題 1/関連 2/参考 2
〈節＋単〉型（周辺）	1 (1%)	関連 1
〈句＋複〉型	11 (7%)	主題 4/関連 4/参考 3
〈語＋複〉型	66 (41%)	主題 7/関連 42/参考 17
〈語＋単〉型	3 (2%)	主題 1/関連 2
〈 ϕ ＋複（複次結合）〉型	28 (17%)	主題 4/関連 20/参考 4
〈 ϕ ＋複（一次結合）〉型	30 (19%)	主題 9/関連 16/参考 5
単独	12 (7%)	主題 11/関連 1
この事件	1 (1%)	主題 1
文を超えたタイプ	1 (1%)	参考 1

(16) 自民党は 18 日、東京都千代田区の赤坂プリンスホテルで第 68 回定

期大会を開いた。小泉純一郎首相はあいさつで、「[中略]」と強調、同党の加藤紘一元幹事長の事務所代表の脱税疑惑や元国会議員秘書らによる不正入札事件などを踏まえ、政治倫理の確立に積極的に対応する考えを表明した。(〈語＋複〉型)

(17) ブッシュ米大統領は 11 日、来月 17、18 両日に日本を公式訪問することで最終調整に入った。昨年 10 月に予定していた来日が米テロ事件のあおりで延期されたことに伴うもので、[以降略] (〈φ＋複 (複次結合)〉型)

(18) 衆院議院運営委員会の与野党筆頭理事は 20 日夜、あっせん収賄容疑で逮捕された鈴木宗男衆院議員に対する辞職勧告決議案を 21 日午後の本会議で採決することで大筋合意した。[中略] 衆院での可決は史上初めて。衆参両院を通じては、オレンジ共済事件の友部達夫元参院議員以来 2 人目。[以降略] (〈φ＋複 (一次結合)〉型)

5. 2. 既出の場合

次に、既出の場合であるが、これには、「この事件」等、他の指示表現も視野に入れる必要がある。ここで、記事内で同一の事件を指す複数の表現が現れた記事は、166 記事あった。

本稿では、「先行表現 - 指示表現」の組み合わせを調査した。その結果、1 記事中に 2 回〈「事件」をめぐる表現〉が現れ、かつ、両者が同一事件を指す例は 69 例あった。

まず、〈「事件」をめぐる表現〉を指示する表現にはどのようなものがあるかを調査する。次に、記事本文中で先行表現となる〈「事件」をめぐる表現〉と指示表現との形式的関係を考察する。

5. 2. 1. 〈「事件」をめぐる表現〉を指示する表現

さて、〈「事件」をめぐる表現〉を指示する表現は、表 4 に示すように、単独の「事件」で受ける場合が多い。次いで、〈φ＋複 (一次結合)〉型が続く。

(19) 北朝鮮による日本人拉致事件で、新潟県警は 5 日夕、生存が確認された曾我ひとみさんが 78 年 8 月に連れ去られた新潟県真野町の現場の実

況見分を終了した。事件から 24 年が経過し、住民の記憶にあいまいな部分もあり、[以降略] (単独の「事件」で指示)

- (20) 大阪教育大付属池田小の乱入殺傷事件を受けて、文部科学省が設置した「学校施設の安全管理に関する調査研究協力者会議」の最終報告書案が 30 日まとまった。校内に死角を作らないことを最重視。池田小事件の遺族から今年 7 月に聞き取った意見を基に、[以降略] (〈 ϕ + 複 (一次結合)〉型で指示)

表 4 : 非冒頭文かつ既出の場合の表現

「事件」	26	主題 26
「同事件」	2	主題 1/関連 1
「この事件」	1	主題 1
「今回の事件」	1	主題 1
〈「事件」をめぐる表現〉		
〈節 + 複〉型 (周辺)	1	主題 1
〈節 + 単〉型 (中心)	1	参考 1
〈節 + 単〉型 (周辺)	1	主題 1
〈句 + 複〉型	3	主題 3
〈句 + 単〉型	1	主題 1
〈語 + 複〉型	8	主題 3/関連 5
〈語 + 単〉型	1	主題 1
〈 ϕ + 複 (複次結合)〉型	4	関連 4
〈 ϕ + 複 (一次結合)〉型	21	主題 10/関連 10/参考 1

5. 2. 2. 記事本文中で先行表現となる〈「事件」をめぐる表現〉と指示表現との形式的関係

次に、先行表現となる〈「事件」をめぐる表現〉とそれを指示する表現との形式的な関係についてであるが、整理すると表 5 のようになった。

例の数が少ないが、以下のことが予想される。

- ・〈節〉型は、ほぼ「単独」で受けている。
- ・〈句〉型以降は、より単純な形式で受ける。

表 5 : 〈「事件」をめぐる表現〉とそれを指示する表現との形式的関係

		指示表現														
		節複中	節複周	節単中	節単周	句複	語複	語単	φ 複複	φ 複一	今回の	この	同	単独	計	
先行表現	節複中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
	節複周	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	節単中	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	7	
	節単周	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	句複	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3	6	
	語複	0	0	0	0	1	6	1	2	10	1	0	2	9	32	
	語単	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	φ 複複	0	0	1	0	1	1	0	1	3	0	0	0	4	11	
	φ 複一	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	1	9	
	合計	0	1	1	1	3	7	1	4	21	1	1	2	26	69	

まず、〈節〉型を「単独」で受ける例を示す。

- (21) 雪印食品が輸入牛肉を国産と偽装し、国の狂牛病対策事業の対象肉として業界団体に買い取らせた事件で、兵庫県警は 1 日、警視庁、埼玉県警、北海道警と合同捜査本部を設置。[中略] 合同捜査本部は、偽装が本社を含む複数の部署で行われていたことから会社ぐるみの疑いを強めており、捜索後、吉田升三前社長らの聴取も行う方針。事件は同社上層部の立件も視野に入れた本格捜査に入る。[以降略] (〈節〉型→単独)

次に、先行表現が〈節〉型以外で、単独の「事件」で受ける例を挙げる。以下の例では、〈語+複〉型を単独の「事件」で受けている。

- (22) 北朝鮮による日本人拉致事件で、新潟県警は 5 日夕、生存が確認された曾我ひとみさんが 78 年 8 月に連れ去られた新潟県真野町の現場の実

況見分を終了した。事件から24年が経過し、[以降略] (〈語+複〉型→単独)

また、単独の「事件」で受ける場合、先行表現の形式に関わらず、調査した26例中26例すべてが主題事件であった。

そして、以下は、〈句〉型以降について、より単純な形式で受ける例である。以下の例では、〈語+複〉型の先行表現を〈 ϕ +複 (一次結合)〉型で受けている。

- (23) 29日のニューヨーク株式市場は、エンロンの倒産事件が政治スキャンダルに発展してきたことを受けて、企業会計全体への不信が広がり、全面安の展開となった。[中略] 昨年11月12日以来、約2カ月ぶりの低水準。エンロン事件が株式市場に大きな影響を与えたのは初めて。(〈語+複〉型→〈 ϕ +複 (一次結合)〉型)

この場合、指示表現は、先行表現からいくつかの要素が省略されることになる。そこで、どの要素が残るかということについて調査してみた。要素は、雨宮(2003)で設定した以下の要素を用いる。

- (24) 《犯罪行為》, 《舞台》, 《被害者》, 《加害者》, 《道具》, 《対象物》, 《日時》, 《修飾的要素》, 《関連事項》

以上の要素のうち、本稿で問題になるものについて、それぞれ定義と実例を示す。それぞれに該当する箇所の下線を付した。

- ◎ 《犯罪行為》 …… 「事件の種類」を指定する要素

- (25) 衆院議員の中島洋次郎容疑者が名義だけの政策秘書を雇って国から給料をだまし取っていた事件

- ◎ 《舞台》 …… 舞台となった場所、組織⁶⁾

- (26) 昨年神戸市で起きた小学生連続殺傷事件

- ◎ 《被害者》 …… 被害を受けた人、物、組織

- (27) 帝京大学のラグビー部員が集団で女性会社員に性的暴行した事件

- ◎ 《加害者》 …… 犯罪行為を行った人、組織

- (28) 帝京大学のラグビー部員が集団で女性会社員に性的暴行した事件

- ◎ 《日時》 …… 具体的な日付、時刻など

- (29) 1993年の大和証券大森支店を舞台にした業務上横領事件

調査の結果を表としてまとめると、表6のようになる。

表6：先行表現と指示表現に見られる要素

先行表現	形式	時	舞	加	被	行	指示表現	形式	加	被	舞	行
北京の韓国大使館領事部で13日 発生した亡命希望者連行事件	句複	○	○	×	○	○	連行事件	φ複一	×	×	×	○
元秘書の尾崎光郎被告の汚職事件	語複	×	×	○	×	○	尾崎被告の事件	語単	○	×	×	×
98年88月のケニア・タンザニア 米大使館爆破事件	語複	○	×	×	○	○	大使館爆破事件	φ複複	×	○	×	○
昨年12月のインド国会襲撃事件	語複	○	×	×	○	○	国会襲撃事件	φ複複	×	○	×	○
エンロンの倒産事件	語複	×	○	×	×	○	エンロン事件	φ複一	×	×	○	×
エンロンの倒産事件	語複	×	○	×	×	○	エンロン事件	φ複一	×	×	○	×
今年1月の雪印食品の偽装事件	語複	○	×	○	×	○	雪印事件	φ複一	○	×	×	×
瀋陽の総領事館内連行事件	語複	×	○	×	×	○	瀋陽事件	φ複一	×	×	○	×
朝鮮民主主義人民共和国の拉致事 件	語複	×	×	○	×	○	拉致事件	φ複一	×	×	×	○
朝鮮民主主義人民共和国による日 本人拉致事件	語複	×	×	○	○	○	拉致事件	φ複一	×	×	×	○
北朝鮮による日本人拉致事件	語複	×	×	○	○	○	拉致事件	φ複一	×	×	×	○
朝鮮民主主義人民共和国による日 本人拉致事件	語複	×	×	○	○	○	拉致事件自体	φ複一	×	×	×	○
大阪教育大付属池田小の乱入殺傷 事件	語複	×	○	×	×	○	池田小事件	φ複一	×	×	○	×
北朝鮮の拉致事件	語複	×	×	○	×	○	拉致事件	φ複一	×	×	×	○
ケーエスデー中小企業経営者福祉 事業団汚職事件	φ複複	×	○	×	×	○	KSD事件	φ複一	×	×	○	×
有本さん拉致事件	φ複複	×	×	×	○	○	有本さん事件	φ複一	×	○	×	×
日本人拉致事件	φ複複	×	×	×	○	○	拉致事件	φ複一	×	×	×	○
		4	6	7	8	17			2	3	5	9

表 6 から、次のことが考えられる。

- ・《日時》は残らない。
- ・最も残りやすいのは《犯罪行為》。
- ・《犯罪行為》の次に残りやすいのは《舞台》。特に、先行表現に《舞台》が現れた場合は、《舞台》が残りやすい。

以上のように、《犯罪行為》のみが残る場合が多いが、基本的に、《犯罪行為》のみでは、事件を特定することは難しい。先行表現を指示しているからこそ、《犯罪行為》のみで何の事件を指しているかが分かるという意味で、指示表現に特徴的な傾向と考えられる。ただし、本調査では「拉致事件」が複数見られた。これは、「拉致事件」の場合は、それだけで、「北朝鮮が日本人を拉致した事件」のことであることが新聞の読者にはわかるからであると考えられる。そういう意味では、「拉致事件」は例外とすべきかもしれない、そうすると、《犯罪行為》が残りやすいとは言えなくなる。

さて、「先行表現より複雑な形式で受ける場合」もある。

(30) ヨルダン川西岸のパレスチナ自治区ベツレヘムの聖誕教会におけるパレスチナ人武装集団ろう城事件で 10 日、国外追放となった重要容疑者 13 人が教会を出て、英空軍機で一時滞在先のキプロスに到着した。

[中略]

イエス・キリストの生誕にゆかりのある教会を舞台にしたろう城事件は 4 月 2 日に発生、一時は、イスラエル軍の強行突入も懸念された。[以降略] (〈語＋複〉型→〈句＋複〉型)

この例は、「(ヨルダン川西岸の) パレスチナ自治区ベツレヘムの聖誕教会におけるパレスチナ人武装集団ろう城事件」という〈語＋複〉型を、「イエス・キリストの生誕にゆかりのある教会を舞台にしたろう城事件」という〈句＋複〉型で受けており、先行表現より複雑な形式で受けている。しかし、この場合、指示する表現は、事件の中心的内容をそのままとめたものではなく、筆者の評価等も含みこんで、別の角度からとらえなおしている。このような場合は、先行表現より単純な形式とはならず、より複雑な形式をとることもあるのである。

しかし、次の例はどう考えればよいのだろうか。

(31) 小泉純一郎首相は 25 日夕、アジア太平洋経済協力会議首脳会議が開かれるロスカボスに政府専用機で到着した。これに先立ち、首相は、機中で記者団に対し、26 日午前に行われる日米韓首脳会談に関し、「[中略]」と述べ、29 日に再開する日朝国交正常化交渉では、拉致事件とともに、北朝鮮の核兵器開発問題を最優先課題として取り上げる方針を強調した。

首相は「[中略]」日本人拉致事件の被害者 5 人の北朝鮮在住家族来日については、「[中略]」と、永住を前提とした来日実現に取り組む姿勢を示した。(〈 ϕ + 複 (一次結合)〉型 → 〈 ϕ + 複 (複次結合)〉型)

これは、〈 ϕ + 複 (一次結合)〉型を〈 ϕ + 複 (複次結合)〉型で受けている。両者は、形式的にすぐ隣り合う関係にあり、こういった場合は自由に移行すると考えられる。

6. おわりに

以上、〈「事件」をめぐる表現〉形式と記事文章内における出現回数・出現位置との関係を調査した。まとめると以下ようになる。

- ・〈「事件」をめぐる表現〉と記事文章の内容との関係から事件を分類したものとして、「主題事件」「関連事件」「参考事件」という観点を導入した。
- ・〈「事件」をめぐる表現〉の初出位置は、記事文章の冒頭文が多い。
- ・冒頭文、非冒頭文、いずれの場合についても、〈語 + 複〉型が多い。
- ・冒頭文に現れる〈「事件」をめぐる表現〉について、記事内容との関連については、「主題事件」が圧倒的に多く、「関連事件」も時々現れるが、「参考事件」は現れない。表現形式は、〈節〉型が見られることに特徴がある。
- ・非冒頭文に現れる〈「事件」をめぐる表現〉は、初出の場合、「関連事件」が多く、「参考事件」も見られるようになる。表現形式は、〈 ϕ 〉型が多く見られるようになり、〈節〉型が少なくなる。既出の場合、先行する「事件」の表現を指示する表現として、単独の「事件」で受ける場合が多い。特に、先行表現の形式との関係では、〈節〉型は、ほぼ単独の「事件」で受けており、〈句〉型以降は、より単純な形式で受ける、という傾向にあ

る。単純な形式で受ける場合、《犯罪行為》《舞台》が残りやすく、《日時》は残らない。

注

- 1) 本稿は、「同一指示」という用語を、文章中における2つの名詞表現の指示対象が同一であるという意味で用いる。
- 2) 本稿において、〈「事件」をめぐる表現〉を、「事件」という語（あるいは語構成要素）を用いて特定の事件を表現するもの」と定義する。
- 3) 雨宮(2003)では、〈節〉型の分析にあたり、連体修飾節の内容によって、例えば「《加害者》が《被害者》を殺した」といったような「中心的なことがら」が描かれる場合と、例えば、「死体が発見された」、「《加害者》が逮捕された」等の「周辺的なことがら」が描かれる場合とに、さらに分けて分析した。また、〈φ〉型の場合、さらに、単一の要素で「事件」と複合している「一次結合型」（「イトマン事件」等）と、さらに複数の要素で「事件」と複合し、要素間にある種の構文的関係を見出すことができる、より説明的な「複次結合型」（「自民党本部放火事件」等）とに下位類化した。
- 4) 〈テキスト的意味〉については、庵(1995)参照。
- 5) 〈3度以上出現している場合〉も、〈2度出現している場合〉の組み合わせで説明可能と考える。
- 6) 組織名を表している場合、明らかに《加害者》《被害者》であるもの以外は、《舞台》とした。

参考文献（本文中で直接言及した文献のみ）

- 雨宮雄一(2003)「新聞社会面記事における「事件」の表現——節による修飾から複合語まで——」『計量国語学』24-1 計量国語学会
- 庵功雄(1994)「定性に関する一考察——定情報という概念について——」『現代日本語研究』1 大阪大学文学部日本学科現代日本語学講座
- 庵功雄(1995)「テキスト的意味の付与について——文脈指示における「この」と「その」の使い分けを中心に——」『日本学報』14 大阪大学
- 市川孝(1978)『国語教育のための文章論概説』教育出版

- 井上和子編(1979)『研究報告 日本語の基本構造に関する理論的・実証的研究』
文部省特定研究報告書
- 井上和子(1983)「文 - 文法から談話文法へ」『言語』12-12 大修館書店
- 井上和子(2009)『生成文法と日本語研究 —— 「文文法」と「談話」の接点』
大修館書店
- 時枝誠記(1954)『日本語文法文語篇』 岩波書店
- 時枝誠記(1960)『文章研究序説』 山田書院
- 永野賢(1965)「文章における「が」と「は」の機能」『日本語教育』7 日本語教育学会
- 永野賢(1983)「談話における叙述の構造」国立国語研究所 1983 『日本語教育
指導参考書 11 談話の研究と教育 I』
- 野田尚史(1984)「有題文と無題文 —— 新聞記事の冒頭文を例として —— 」
『国語学』136 国語学会
- 野田尚史(1996)『新日本語文法選書 1 「は」と「が」』 くろしお出版
- 林四郎(1973)『文の姿勢の研究』 明治図書

付記

本稿は、計量国語学会第三回定例会（2006年5月12日 於 国立国語研究所）等における口頭発表をもとにしたものである。その際、多くの方々に有益な御教示を賜った。ここに感謝申し上げます。

（吉林外国語大学外籍教師）